

プライバシー情報提供の可否に関する調査
-経年変化に関する考察-

A Study of Willingness for Private Information Providing
- Estimating Change over the Year from 2010 to 2021 -

金森 祥子* 佐藤 広英†* 太幡 直也‡* 野島 良*
Sachiko Kanamori Hirotsune Sato Naoya Tabata Ryo Nojima

キーワード プライバシー, データ利活用, 同意取得, ユーザ評価

概要

データ利活用は、インターネット及びデジタル機器の普及と技術の進歩により、ますます促進の方向に向かっている。ユーザのプライバシーを保護するために法制度が整備され、プライバシーポリシー提示と同意取得の仕組みが普及している。しかし、データ利活用とユーザのプライバシー保護の両立は、まだ現代社会における大きな課題の一つであると考えられ、その問題点が指摘されている。利活用されるデータの主体であり、データを収集される側の立場にあるユーザのプライバシーに対する考え方が、どのように変化しているかを調査するために、著者らはプライバシー情報提供の可否に関する調査を継続して実施している。本稿では、2021年に実施した調査の結果を報告するとともに、一般ユーザのプライバシーに関する意識がどのように変化してきているか、また、ユーザのプライバシーに対する意識の変化の要因について考察する。

* 国立研究開発法人情報通信研究機構 〒184-8795 東京都小金井市貫井北町 4-2-1. National Institute of Information and Communications Technology, 4-2-1, Nukui-Kitamachi, Koganei, Tokyo 184-8795, Japan.

† 信州大学 〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1. Shinshu University, 3-1-1, Asahi, Matsumoto, Nagano 390-8621, Japan.

‡ 愛知学院大学 〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池 12. Aichi Gakuin University, 12 Araiike, Iwasaki-cho, Nisshin, Aichi 470-0195, Japan.